

# 小高区再生構想(案)

H26.5.29  
小高区地域協議会説明資料(企画課)

## 【策定の目的】

避難している住民が戻り、一刻も早くこれまでの生活を取り戻し、小高区の再生を図るためには、暮らしやすい安全・安心な生活環境を整備するとともに、人口減少と少子高齢化に対応した新しい生活提案が必要であり、その方向性を示すため作成するものです。

## 【基本コンセプト】

歴史に根差し、交流を通じた、創造的な小高の再興を【基本方針】

過去(歴史)・現在(現実)・未来(創造)との交流【目指すべきまちのあり方】

1. コンパクトなまちにする
2. 安心・安全に心を配り、生活しやすいまちにする
3. 地域コミュニティを再生できるまちにする
4. 雇用と産業を生み出せるまちにする
5. 夢・希望を語れるまちにする

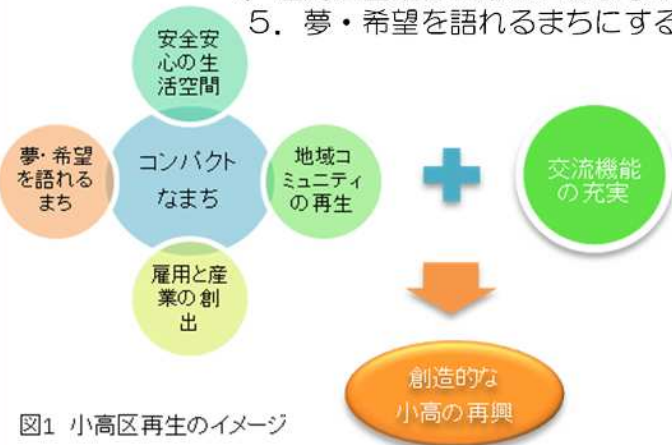


図1 小高区再生のイメージ

図4 イメージ2  
(多目的交流ゾーン内の広場)



## 導入する機能(まちを特徴づける機能)

### 安全・安心を担保する機能

- 交流・情報発信機能
- 福祉・健康機能
- 教育機能
- 子育て・見守り機能
- 高齢者生活支援機能
- 防災機能
- 省エネルギー、低炭素化機能

### コミュニティを形成する機能

- 居住機能
- エリア自助・互助機能
- アメニティ機能

### 経済を再生する機能

- 商業・業務機能
- インキュベーション機能
- 情報集積・発信機能
- 文化・娯楽機能



図2 市街地ゾーニング



図3 イメージ1  
(駅側から県道交差点部を望む)

未来を担う若者向け交流・文化施設、商業インキュベーション施設などを配置

## アンケート及び懇談会意見のまとめ

**現在** ~ 生活環境をきちんと整備する  
 ・「日常生活がごく普通に安心して営めるかどうか」ということが帰還の前提  
 ・生活インフラが便利、現在の仮住まいの市町村と比べて遜色のないものにならないと帰還に踏みきれない  
 ・医療・福祉・買物・交通・住宅などの(子育て・高齢者への配慮を含めた)整備  
 ・除染・放射能対応と防災(とりわけ原発廃炉過程の)リスクマネジメント  
 ・コミュニティ再生(どの程度市民が戻るのか、地域コミュニティが成り立つのかということと戻った後の地域コミュニティの関係づくり)  
 ・働く場の確保(雇用と産業)

**過去・歴史** ~ 地域に誇りを持てるか  
 ・帰還へのモチベーションを高めるためには、「小高が大好き」「小高のこんなところがいい」という故郷小高への思いを今一度喚起する必要がある  
 ・地域資産(自然・歴史・文化等)を再度見直し、自信と誇りをもって、外部に向かって情報発信(過去から資産を未来へつなげる)できるような環境整備が必要  
 ・自然・歴史・文化・伝統産業(これまでの地元のなりわい)を大事にする  
 ・情報発信のための交流のしくみを整える

**未来** ~ 小高の可能性を信じることができるか  
 ・子どもたちの帰れる小高区・子育てしやすい小高区にできるか  
 ・外部の新しい人達との交流・定着・移住ができるような環境をつくれるか  
 ・そして新たな未来に向けたまちづくり活動ができるか  
 ・新しい産業の芽をつくれるか  
 ・世界に向けての震災・原子力災害からの復興を情報発信できるか

